



医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1410

少子高齢化近況と医療連携

事務局長 横澤良一



一昨年4月より事務局長を仰せつかっております横澤と申します。

皆様方には、日頃から格別のご協力、ご支援をいただいているところでありまして深く感謝申し上げます。

さて、置賜地域におきましても、人口の減少と少子高齢化が同時並行的に急速な勢いで進行し、患者数の減少や患者の高齢化・病態の変化が顕著となってきました。この度、折角の機会をいただきましたので、当院の現状から見た少子・高齢化の一端や連携の状況につきまして御報告させていただきます。

まず、延患者数をフルオープン時の平成13年度と直近の24年度と比較しますと、外来、入院ともに1割程度

減少しています。

これらは、開業医をはじめとする先生方との機能分担や紹介・逆紹介などによる連携の強化が進んでいることやクリニカルパスなどの活用による医療提供の標準・均一化、在院日数の短縮化など様々な要因が考えられ、また同じく実患者数も確実に減少してきています。

さらに、患者さんのうち高齢者の占める割合が年々高まってきており、昨年11月の入院患者のうち75歳以上の後期高齢者の割合

特集:

事務局長
横澤良一・・・1

放射線部副技師長
土屋一成・・・2

市民公開講座
「置賜の明日の医療を
考える」
・・・3

医療連携・相談室
からのご案内
・・・4

は約半数の48.4%に、処置の内容や身体の状態などによって表わされる看護必要度の割合も17%と高くなってきています。

手術件数は開院時と比較し2割ほど増えておりますが、特に、加齢が増加要因と思われる眼科や泌尿器科が約2倍に、また、整形外科は総件数では微増ですが、高齢者の骨折が増えています。一方、若者世代の減少や晩婚化などの影響により、分娩取扱数、小児科の患者数で減少傾向が見られます。

平成24年度の紹介率は65.4%、逆紹介率は50.7%と年々右肩上がりとなってきておりますが、これは、当院が平成23年12月に「地域医療支援病院」の承認を受け、より積極的な連携強化に努めていることによるも

ので、特に最近では、WEB予約や予約枠の拡大にも力を入れていきます。

また、当院が事務局となっておりますOKINETにつきまして、確実に参加施設数や連携患者数が増加しているほか、今後は、置賜地域内に止まらず、同じようなシステムを持つ他の地域とのネットワーク化により、山形県内、全国に拡大され情報の共有化が進む予定となっております。

最後に、地域の医療、介護、福祉の関係機関、関係者の皆様方との密接な連携、役割分担のもと、住民の皆様方の医療ニーズに協働し対応して参る所存ですので、御指導の程よろしく申し上げます。

放射線部雑感

公立置賜総合病院 放射線部副技師長 土屋 一成

今回、院内のコメディカル部門からということで、原稿依頼を引き受けてしまい貴重な紙面を使わせて頂く事になり恐縮ですが、放射線部の紹介を兼ねながら雑感を寄稿させていただきます。

TVで放映される医療ドラマは数多くありますが、放射線部が主役のTVドラマは残念ながら観たことはありませんし、また実際の医療現場でも主役で大活躍と言う場面は、滅多にない(ほとんどない?)のかなと思います。

しかし、新年度の医療機器予算要求時期になると、一躍主役に躍り出て多額の予算を占めてしまう部門が、私達放射線部門かもしれません。

当院が開院してから、10数年が経過し画像診断装置の老朽化等が貴重な予算を使わせていただきながら現在各種装置の更新を行っております。



全身の画像診断に用いられるCT装置や循環器系疾患に用いられる心臓血管撮影装置の更新、そして昨年は3.0T-MRI装置の増設を行い、高度な医療が提供できる体制の充実を図っています。また、置賜地域で唯一の放射線治療装置を更新し、外科手術や化学療法と併せて放射線治療を行いがん医療の一翼を担っています。

私が放射線技師として歩み始めたころは、1つのスライス(画像)が10秒程度の撮影時間で得られる新型?のCT装置が医療現場で使われ始めたころでしたが、今では1秒足らずの撮影時間で最大320スライスが得られるCT装置が開発され、当院でも活躍しています。

アナログ時代からデジタル時代へと言われて久しいですが、医療を受けられる主役の患者さんはいつの時代も同じですので、医療の原点を忘れないように心がけて私達放射線スタッフも日々の業務に努めているところです。

医療情報網(OKI-net)等が整備され、地域の先生方から放射線画像検査の依頼を頂きますが、検査ま

で待ち日数がありご迷惑をおかけしており大変申し訳ありません。新年度からも予約時間枠等の見直しを行い、院内の検査も含め速やかな検査対応を目指しているところですのでご理解をよろしくお願いいたします。当院の基本理念である「心かよう信頼と安心の病院」の下、私達放射線部も地域住民の健康と安心を守る支えとなり、また地域の先生方の診療の一助になれば幸いと願っています。

稚拙な文章となりましたが、私達も見えないスポットライト(X線)を駆使して主役のために、これからも良い医療を提供できるよう努力していきたいと思います。

3 明日の医療を考える報告

講演「超高齢社会における医療提供体制の将来像」

山形大学大学院医学系研究科 教授 村上 正泰



去る11月30日(土)に、置賜広域病院組合主催で第6回公開講座をタスパークホテルで開催しました。(参加数142名)

講師に厚生労働省で勤務経験のあられる、山形大学大学院医学研究科教授の村上正泰先生をお招きして講演をいただきました。またお二人のパネリストをお迎えしてディスカッションがなされました。

パネリスト

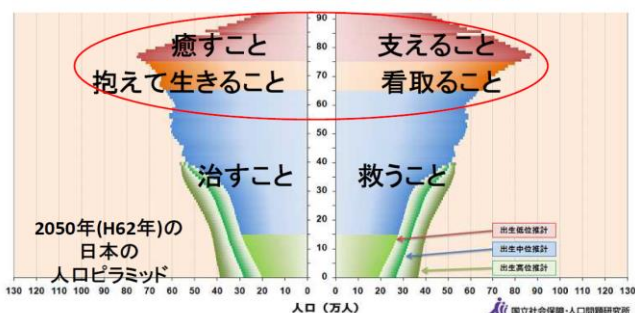
済生会山形訪問看護ステーション 所長 岡田陽子氏
おぐに訪問看護ステーション 看護部長 伊藤和子氏
座 長
公立置賜総合病院副院長兼医療連携部長 山田昌弘

【講演内容】

1990年、全人口の年齢分布は40歳にピークがあり、医療は「治すこと」「救うこと」が主流であった。しかし2050年の日本の人口ピラミッドは70歳以上の高齢者がピークとなるように推移していくことが予想されている。

高齢者医療は慢性疾患を抱えていたり、複数の病気や症状を有するなどの特徴があり、従来の「治す」「救う」ということだけではなく、「**癒すこと**」「**抱えて生きること**」「**支えること**」「**看取ること**」が社会的に重要と なる。今後は慢性疾患を抱えた高齢者に対して、生活の視点を中心にケアを組み立て、「生活を支える」医療介護を提供しなくてはならない。患者・利用者の多様なニーズに応えるためにも**多職種連携によるサービスの複合的な提供体制**が重要な要素であり、在宅療養と施設入所や急変時の入院を二者択一的に捉えるのではなく**補完的に機能させながら、できる限り住み慣れた地域での療養生活を支援していく**ことが必要である。

多くの病気を治せなくなる頃



ディスカッション

山田座長:在宅での「看取り」について

伊藤氏:できるだけ在宅で過ごし、最期は病院でという希望の患者さんが増えている。

岡田氏:家でも看取りができるんだ、という考えが広まりつつある。また、病院に長く入院できないという現状も。

山田座長:講演の中で「Quality Of Death」という考え方がありましたが。

村上氏:**亡くなるまでのプロセス**が重要なのかと。できる限り住み慣れた場所で過ごすことができる環境を作るのが大事である。

山田座長:在宅に係る人材の育成について

岡田氏:訪問看護に携わるのはある程度経験のある人材となっているが、若年層の興味も高い。若い力を、どのように取り込んでいけるかが課題。

伊藤氏:限られた人数の中で実施しているので、病棟・外来を経験した上でとってしまう。

村上氏:診療報酬の観点からも、7:1看護体制への報酬から訪問看護への報酬を手厚くすると**いう方向性**がある。



質疑応答

参加者:これから認知症が増えていく。例えば家族が休息をとれるよう一時的にあずかるといった、制度的な動きがあるようでしたら教えてほしい。

村上氏:基本的なスタンスとして施設から自宅へという方向性があり、診療報酬についても手厚くという議論がなされている。

参加者:病院ではチーム医療が推進されているが、入院中ある意味「守られていた」患者さんが施設や在宅へ行くには不安が大きい。地域ぐるみで1人の患者さんを診ていくために、ポイントとなる点は。

村上氏:どこが主体となって進めるかは、地域によって差がある。医師会・病院・行政 etc…

米沢市医師会高橋会長:在宅で「看取る」役割は医師。**訪問してくれる医者を地域で作る**という点が第一かと思う。また、**在宅＝自宅ではない**ことにご留意いただきたい。(住宅型・認知症対応のホームなど)いかに自宅に近い環境で過ごすかが重要ということ。

「キユア」から「ケア」へ 生活を支えるための医療・介護の提供を

公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町
大字西大塚 2000 番地TEL:
0238-46-5000予約センターTEL:
0238-46-5700FAX:
0238-46-5722E-MAIL:
renkei@okitama-hp.or.jp置賜広域病院組合
公立置賜総合病院
www.okitama-hp.or.jp病院理念
心かよう信頼と安心の病院

地域連携会議

平成 21 年度より地域の保健福祉、介護関係者との連携を構築する目的で「地域連携会議」を年 4 回程度開催しております。参集者は置賜各地域の包括支援センター、置賜保健所より、また当院から医療連携・相談室、在宅療養支援担当者、社会福祉士等です。

今年度の会議内容をご紹介します。

6 月 27 日

- ①保健所より「在宅医療の推進について」の情報提供
 - ・置賜地域の在宅医療施設の情報が置賜保健所のホームページに掲載、提供されている情報の紹介
 - ・新たな地域医療再生計画の説明
- ②退院支援、退院後支援で問題のあった事例検討
- ③退院支援患者の統計報告
- ④医療連携・相談室、相談支援センターの今年度の活動計画紹介

9 月 12 日

- ①地域連携パスについての情報提供
 - ・大腿骨パス、脳卒中パス、がんパス、心筋梗塞パスについての運用や実績についての紹介
- ②高齢者見守りネットワークについて、各地域の取り組み状況を伺う
 - ・高齢者 1 人暮らし、認知症患者のネットワーク体制が各地域で検討されている。今後地域において「見守り隊」なる多職種チームが重要な役割を担っていく。

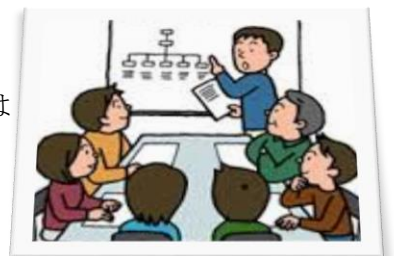
12 月 12 日

- ①OKI-net を活用した在宅療養支援の取り組み紹介
 - ・医療情報の共有で活用されている OKI-net を看護の分野へ展開している事例の紹介
- ②がん終末期患者の在宅療養支援について、各地域の現状と課題
 - ・がん患者の意思を尊重し、在宅で過ごしたいというケースでは、介護保険申請や介護福祉サービスを早急に利用できるような体制作りが求められ得る中で、患者を取り巻く病院と地域とでスムーズな連携を図る必要がある。退院時のみの連携ではなく、在宅での症状悪化時や急変時の対応なども含め連携が必要であるなど話し合う。

3 月 14 日（予定）

- ①地域ケア会議の状況について 他

「在宅医療」が叫ばれる昨今、地域連携会議は重要な意味を持つ会議になってきています。国が掲げている「地域包括ケアシステム」において、地域包括支援センターは各地域の主軸的役割とも言われております。患者の在宅療養支援において、顔の見える連携協同のため、今後も意義ある会議にして行きたいと考えます。

OKI-net の利用施設が
77 施設となり、

登録患者数は 6,500 名を超えました。
今後もぜひご利用いただき、まだの先生
でご興味ある方はぜひお声掛け下さい。



予約センターから

患者さんの待ち時間
短縮のためにも、
紹介予約の取得にご協力ください。
また、事前に症状を確認するため、
紹介状の FAX も併せてお願いいた
します。

***あけまして
おめでとうございます***
今年もよろしく
お願いいたします

